

国語

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(多田道太郎『日本語の作法』による)

(注) フィジールの作法Ⅱ自分を低めて、相手に敬意を示し、品位を高めるような作法

問一 傍線部(1)～(3)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄 I II III に入る適当な敬語の名称を漢字で答えなさい。

問三 傍線部(ア)「つきあたりの酒屋さんでうかがって下さい」とあるが、このように言った人は酒屋さんを尊敬しているかどうかを答え、その理由を述べなさい。

問四 空欄 IV V に入るもつとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

1	しかも	2	つまり	3	あるいは	4	ところで	5	しかし	6	だから
---	-----	---	-----	---	------	---	------	---	-----	---	-----

問五 傍線部(イ)「呼び捨て」と同じような意味のことを文中から四字で抜き出して答えなさい。

問六 空欄 VI に入るもつとも適当な漢字一字を答えなさい。

問七 傍線部(ウ)「職縁」と同じような意味のことを文中から十字程度で抜き出して答えなさい(記号や句読点も字数に含む)。

問八 傍線部(エ)「そのしつけ」とあるが、それを説明している箇所を解答欄に合うように文中から三十字以内で抜き出して答えなさい(記号や句読点も字数に含む)。

問九 敬語の用い方について、本文の内容を参照して考察し、その結果を以下の文章にまとめた。空欄に入る適語を語群から補充して答えなさい。

〔語群〕	こういった人	・ 尊敬語	・ 聞いた人	・ お聞きになる	・ 丁寧語
	お聞きする	・ 酒屋さん	・ 主体	・ 謙譲語	・ 客体

「酒屋さんでうかがって下さい」が、聞いた人に対する言い方としておかしいと感じるのは、「うかがって下さい」の「うかがう」が 1 だからです。これは、聞いた人の動作に用いる敬語ではありません。聞いた人を立てるためには、2 を用いる必要があります。この場合は、「3」を使えば良かったのです。

このような「うかがう」は、「聞く・尋ねる」という動作の 4 を立てる敬語といわれ、「うかがって下さい」では、5 を立ててしまうことになり、聞いた人を尊敬する敬語にはなりません。「6」といった敬語も、「うかがう」と同じ性質の敬語です。そのため、「酒屋さんでお聞きして下さい」も聞いた人に対しては用いることができません。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

（永井龍男『朝霧』による）

(注1) 沙翁^{さおう}Ⅱイギリスの劇作家シェークスピアのこと

(注2) ホラチウスⅡ古代ローマの詩人

(注3) ホメロスⅡ古代ギリシャの詩人

問一 傍線部(1)～(4)について、片仮名のは漢字に直し、漢字のは読みを平仮名で書きなさい。

問二 傍線部(ア)「埒はあかない」、(イ)『引導』を渡しとあるが、「埒はあかない」「引導を渡す」の意味としてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

(ア) 埒があかない

- | | | | | |
|----------|--------|---------|----------|---------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 良い結果が出ない | 勇気が出ない | 本気になれない | 事態が進展しない | 相手にされない |

(イ) 引導を渡す

- | | | | | |
|---------|-----|--------|------|---------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| びつくりさせる | だます | おびえさせる | 嘘をつく | あきらめさせる |

問三 空欄 A には、「煮え切らない」という意味を持つ四字熟語が入る。もっとも適当なものを次の中から選び、番号

で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 曖昧模糊 | 2 | 謹厳実直 | 3 | 傲岸不遜 | 4 | 豪放磊落 | 5 | 優柔不断 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

問四 空欄 B C に入る語としてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | おろおろ | 2 | こそこそ | 3 | すらすら | 4 | ずるずる | 5 | たらたら | 6 | べたべた |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

問五 傍線部(ウ)「この茶番」とあるが、その内容を具体的に示している一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問六 傍線部(エ)「私の神経も、この座敷に戻っていた」とあるが、「神経」が「この座敷に戻る前の「私」の状態を説明した次の文の空欄に入る適当な文を、十字程度で書きなさい。

その場の雰囲気巻き込まれないために、

を考えていた。

問七 傍線部(オ)「占めた！」と私は思った」とあるが、その理由としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 老夫人がX氏に「良英の選んだ女性」を積極的に薦めていることが分かったから。
- 2 老夫人の口から、良英に対する文句をこれ以上聞かされなくて済むと思ったから。
- 3 老夫人の叫びによって、不毛なやり取りを聞くことから解放されと思ったから。
- 4 老夫人の言葉に乗じて、煮え切らないX氏を説得することができると考えたから。
- 5 老夫人の言葉によって、ラセラスのことで悩まなくて済むようになると思ったから。

問八 本文の内容として適切でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」は良英が選んだ女性を彼にとってふさわしい人だと確信したので、彼に協力することにした。
- 2 良英の言い分によれば、彼が家出をするのは「嫁が息子を奪う」という両親の妄想を取り払うためだった。
- 3 「私」は良英が家出をするという計画を知らされないうまま、家出の翌朝にX家を訪れることになった。
- 4 X氏が口にした「ラセラスは……」という場違いな言葉を聞いて、「私」も老夫人も哑然とした。
- 5 家出という「最後の手段」が功を奏し、良英は自分が選んだ女性と結婚することができた。

問九 作者の永井龍男は、第二次世界大戦後に長く活躍した小説家である。彼と同じく、第二次世界大戦後に活躍した人物を次の中から一人選び、番号で答えなさい。

1 芥川龍之介

2 有島武郎

3 井伏鱒二

4 中島敦

5 夏目漱石

選択問題

三

(その一・古文) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(『十訓抄』による)

(注1) 成範卿しげのり＝藤原成範。正二位、中納言。藤原通憲(信西)の三男。「ことありて」は平治の乱で父信西が権力者の地位を追われ、下野の国に流罪となった一件を踏まえる。

(注2) 入立いりたち＝女房の詰所である宮中の台盤所に立ち入ることを許された者。

(注3) 小松大臣こまつのおとし＝平重盛。平清盛の嫡男。従二位、内大臣。

(注4) かき上げの木＝灯心をかきたて、炎を明るくするための木の棒。

問一 傍線部(1)「内裏」、(2)「御簾」の読みを平仮名で答えなさい。

問二 空欄

A

B

にはどちらも助動詞「ず」が入る。これを文中に合うようにそれぞれ適当な形に活用させて答えなさい。

問三 空欄

C

にもっともふさわしいと思われる文字を平仮名一字で答えなさい。

問四 成範卿の返歌はどういう内容だったのか。問三を踏まえて、下の句を現代語訳しなさい。

問五 空欄

D

には「ありがたし」が入る。これを文中に合うように適当な形に活用させて答えなさい。

問六 (1)『十訓抄』は文学史上、どのようなジャンルに分類されるか。(2)また、『十訓抄』とおよそ同時代と考えられる作品は何か。(1)(2)それぞれの選択肢の中からもっとも適当なものを選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|-----|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| (1) | 1 | 歌物語 | 2 | 軍記物語 | 3 | 随筆文学 | 4 | 日記文学 | 5 | 説話文学 |
| (2) | 1 | 源氏物語 | 2 | 平家物語 | 3 | 雨月物語 | 4 | 竹取物語 | 5 | 栄花物語 |

（その二・現代文） 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(森本哲郎『私』のいる文章』による)

(注) ウルⅡ現在のイラクにある古代都市

問一 傍線部(1)、(2)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 傍線部(ア)「拍子抜け」、(イ)「やるせない」の意味としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

(ア) 「拍子抜け」

- | | | | | |
|-----------------|------------------|-----------------|---------------|--------------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 不調を乗り越えて意欲を抱くこと | 緊張感を取り除きゆったりすること | 気持がくじけ意欲がなくなること | 手拍子の調子がよくないこと | 手を打ち合わせながら音を出さないこと |

(イ) 「やるせない」

- | | | | | |
|----------------|---------------|---------------|-------------|--------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 許すことができない心境である | どうにもならない気持である | ゆとりが全くない心持である | 悲しくて慰めようがない | 憂鬱で心が晴れそうにない |

問三 空欄

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | だから | A |
| 2 | つまり | B |
| 3 | あるいは | D |
- に入るもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。
- | | |
|---|------|
| 4 | しかも |
| 5 | なぜなら |
| 6 | だが |

問四 傍線部ウ「さも軽蔑したようにいった」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「カメラ好きの友人」が「さも軽蔑したようにいった」のは、なぜか。「筆者の写真に」に続ける形で句読点を含めて二十
五字以内で答えなさい。

(2) この文章を読んだマミさんは、自分の撮った写真を発表することにした。「カメラ好きの友人」に批判されそうな写真を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 虹がかかったように見える川の写真 | 2 山頂から眼下に広がる雲海の写真 |
| 3 水平線の向こうに浮かぶ島の写真 | 4 ファストフード店の写る古都の写真 |
| 5 紅葉の美しい神社仏閣の写真 | |

問五 空欄 C には、同じことばが入る。もっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 非主體的 | 2 非科学的 | 3 非人道的 | 4 非現実的 | 5 非倫理的 |
|--------|--------|--------|--------|--------|

問六 本文の内容にもっとも合うものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 人は、現実世界で写真を撮らないものである。
- 2 現実とは、意識的に目を背けたくなるものである。
- 3 イメージは、物の見方や認識を左右するものである。
- 4 写真とは、イメージと現実との狭間にあるものである。
- 5 取材でもっとも大切なことは、新しいイメージである。

【一】

問一 (1)措置 (2)弊害 (3)鼓舞 (4)矛盾

問二 A ∥ 3 B ∥ 6

問三 3

問四 4

問五 C ∥ 骨、D ∥ 身(完答)

問六 5

問七 自分の直感に訴えてくるある感覚や思いを、まず言葉に変え、さらにそれを実際の現象にてらしながら厳密な概念に仕上げる(という作業)

問八 2

問九 I ∥ 23 II ∥ 6 III ∥ 4 IV ∥ 2 V ∥ a

【出題意図】

問一 基本的な漢字の書き取り。

問二 接続詞の理解。

問三 内容の理解。

問四 意味の把握。

問五 語彙力の確認。

問六 指示語の理解。

問七 指示語の理解。

問八 内容の把握。

問九 表の読み取り。

【二】

問一 (1)懐中 (2)放題 (3)乱雑 (4)得意

問二 A ∥ 3 B ∥ 4

問三 (例)旅行に出かけて祖母に心配をかけてやろうということ。

問四 2

問五 (1) ① ∥ 4 ② ∥ 3

(2) ③ 可笑しい中に何だか泣きたいような気持が起って来た

④ 和いだ、然し少し淋しい笑顔をして立って居た

問六 2

問七 1

【出題意図】

問一 基本的な漢字の書き取り。

問二 接続詞の理解。

問三 内容の把握。

問四 内容の把握。

- 問五 語彙力の確認。
問六 内容の把握・登場人物の心情の理解。
問七 基礎的な文学史の知識の確認。

【三】

その一・古文

問一 AⅡ仰せ BⅡ申す

問二 2

問三 (2) みゆき (3) おぼ (4) たぐい

問四 已然形

問五 (例) 連れていらっしやるのはたいへんむずかしいのではないか(むずかしいだろうと存じます。

問六 3

【出題意図】

- 問一 文脈理解と古語の知識を問う。
問二 文法的知識を問う。
問三 古語の知識を問う。
問四 文法的知識を問う。
問五 文脈理解と現代語訳能力を問う。
問六 文学史的知識を問う。

その二・現代文

問一 (1)免 (2)変貌 (3)崩壊

問二 1

問三 AⅡ 2 DⅡ 3

問四 BⅡ物件 CⅡ現象

問五 コミュニケーション

問六 誤っているもの (5)

根拠(例) 受容者の反応がさまざまであっても、表現の意味は必然的に収斂していくものである(と筆者は考えているから。)

【出題意図】

- 問一 漢字の知識、書き取り能力を問う。
問二 語彙(漢語)の知識を問う。
問三 文脈を理解し、適切な接続表現を用いる能力を問う。
問四 文脈を理解する能力を問う。
問五 文脈を理解する能力を問う。
問六 論旨を理解し、解答の根拠を説明する能力を問う。